

# 保険・年金 フォーカス

## 2024 年の米国個人年金販売額は 2四半期連続で 1000 億ドル超え -じわりと存在感を増すRILA-

保険研究部 主任研究員 磯部 広貴  
(03)3512-1789 e-mail: h-isobe@nli-research.co.jp

### 1——はじめに

米国では 65 歳以上の人口が増え続けるという人口動態を背景に、老後の生活資金を一生にわたって年金の形で受け取りたい、しかし運用は元本を確保しつつ安定的に、といったニーズが増大している。

近年、上述のニーズに応じるものとして個人年金の中でも主に定額年金に資金が流入してきた。これを受け米国の個人年金販売額は、2023 年に 3,854 億ドルに至り過去最高であった前年からさらに 23%の増加を果たした。

しかし 2024 年以降は米国において金利の低下が予想される中、定額年金の販売が減速するため同年の個人年金販売額は前年比で減少するとの見方があった。

この保険・年金フォーカスでは、米国における生保・年金のマーケティングに関する代表的な調査・教育機関である LIMRA が 8 月に公表した 2024 年上半期販売実績を中心に、米国個人年金市場の現状をお伝えしたい。

### 2——2024 年上半期販売額実績

2024 年第 1 四半期（2024 年 1 月～3 月）の個人年金販売額は 1,067 億ドル、同年第 2 四半期（2024 年 4 月～6 月）では 1,099 億ドルと、2 四半期連続での 1000 億ドル超えを果たした。過去最高であり初の 1000 億ドル超えを果たした前年第 4 四半期（2023 年 10 月～12 月）の水準には届かなかったものの、同四半期から数えて 3 四半期連続で 1000 億ドル超えが現実のものとなった。

第 1 四半期と第 2 四半期を合計した 2024 年上半期では 2,166 億ドルと、前年上半期に比し 20%の増加となった。これは上半期として過去最高記録となる。

その中で変額年金は 2023 年に前年比▲4%であったところ、2024 年上半期は前年上半期比 25%増と復調を果たした。登録指数連動年金（RILA）の貢献が大きい、これについては次章で詳述し

たい。

一方、定額年金は 2023 年の前年比増加率（37%）と比較すれば減速したものの、2024 年上半期でも前年上半期比 18%の増加に至った。

その中で確定利付き据置定額年金は 2024 年上半期に 837 億ドルの販売実績を確保し、引き続き商品別の実額で最大となった。元本が保証されつつ銀行 C D などよりも高い金利を得られる魅力に変わりはなく、過去の確定利付き据置定額年金を解約して再投資する動きも強い。また、定額指数連動年金（F I A）も同年上半期に 593 億ドルと前年上半期比 23%増となった。

詳細は図表 1 の通りとなる。

【図表 1：2024 年第 2 四半期までの商品別個人年金販売額実績（単位：10 億ドル）】

|                 | 2023  |       |       |       |       |       | 2024  |       |       |              |              |            |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------------|--------------|------------|
|                 | 第 1 Q | 第 2 Q | 第 3 Q | 第 4 Q | 上半期計  | 通年計   | 第 1 Q | 第 2 Q | 上半期計  | 第 2 Q 前期比増加率 | 第 2 Q 前年比増加率 | 上半期 前年比増加率 |
|                 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |              |              |            |
| 変 額 年 金         | 23.2  | 24.7  | 25.6  | 25.3  | 47.9  | 98.8  | 28.2  | 31.7  | 59.9  | 12%          | 28%          | 25%        |
| 伝統的変額年金         | 12.8  | 13.3  | 13.0  | 12.3  | 26.1  | 51.4  | 13.7  | 15.4  | 29.1  | 12%          | 16%          | 11%        |
| 登録指数連動年金 (RILA) | 10.4  | 11.4  | 12.6  | 13.0  | 21.8  | 47.4  | 14.5  | 16.4  | 30.8  | 12%          | 44%          | 41%        |
| 定 額 年 金         | 70.8  | 62.4  | 63.0  | 90.4  | 133.2 | 286.6 | 78.5  | 78.2  | 156.7 | 0%           | 25%          | 18%        |
| 確定利付き据置定額年金     | 41.5  | 30.5  | 34.4  | 58.5  | 72.0  | 164.9 | 43.0  | 40.7  | 83.7  | -5%          | 33%          | 16%        |
| 定額指数連動年金        | 23.1  | 25.3  | 22.6  | 24.9  | 48.4  | 95.9  | 28.6  | 30.7  | 59.3  | 7%           | 21%          | 23%        |
| 据置終身年金          | 0.8   | 1.1   | 1.0   | 1.3   | 1.9   | 4.2   | 1.2   | 1.3   | 2.5   | 10%          | 21%          | 30%        |
| 確定利付き即時支払定額年金   | 3.4   | 3.4   | 2.9   | 3.6   | 6.8   | 13.3  | 3.6   | 3.4   | 7.0   | -6%          | 0%           | 3%         |
| ストラクチャードセツルメント  | 2.0   | 2.1   | 2.1   | 2.1   | 4.1   | 8.3   | 2.1   | 2.1   | 4.2   | 0%           | 0%           | 2%         |
| 合 計             | 94.0  | 87.1  | 88.6  | 115.7 | 181.1 | 385.4 | 106.7 | 109.9 | 216.6 | 3%           | 26%          | 20%        |

（資 料） LIMRA: U. S. Individual Annuity Salese Survey, Second Quarter 2024より筆者が転記。

かねて金利の低下が不安視されながらも、実際に連邦公開市場委員会（F O M C）が 0.5%の利下げを決定したのは 9 月中旬であって、上半期の定額年金販売に大きな影響を与えることはなかったようだ。先行きは利下げ継続とみられるものの、さらなる利下げ前に駆け込み需要的に契約が見込まれ、2024 年の定額年金販売が大きく減速することはないとの楽観的な見通しもある。

尚、図表 1 に記された個別商品の概要については当レポート末尾の別表を参照いただきたい。

3——RILAの動向

堅調な株式市場と金利低下見通しの中、変額年金の復調に不思議はないが、これを牽引したのは先述の通り登録指数連動年金（R I L A）である。R I L Aに元本保証はないものの、損失を一定の範囲内に抑えるよう設計されている。反面リターンも抑制されるが、損失に底のない伝統的変額年金と比較すれば、安定して老後資金を確保したいというニーズを一定取り込める運用商品と言えるだろう。

R I L Aは2010年に登場した新しい商品であり、図表2の通りここ数年販売が加速してきた。2023年第4四半期（2023年10月～12月）には初めてその販売額実績が伝統的変額年金を上回った。この傾向は2024年も継続している。

【図表2：R I L Aの年間販売額実績（単位：10億ドル）】



（資料）LIMRA: U.S. Individual Annuity Yearbook -2023 Year in Review- の Figure 10を抜粋

R I L Aの販売チャネルとしては、独立ブローカー・ディーラー(51%)と専属エージェント<sup>1</sup>(23%)が多数を占めている。

#### 4—おわりに

L I M R Aは2023年11月時点で、金利低下に伴う定額年金の大幅減少を受け個人年金全体の2024年販売額を前年比10%前後のマイナスと見込んでいたが、現時点では前年を上回り過去最高を更新すると予想している。

金利低下など経済環境の変動があろうとも、増大する高齢者が安定的に老後資金を確保したいというニーズが減少するわけではない。たとえ定額年金の販売が減速したとしても、それを補いうる中間形態の商品としてR I L Aの存在感が増してきた中、米国で個人年金の販売が大崩れすることはないように思われる。

今後の動向を引き続き、保険・年金フォーカスで取り上げていきたい。

<sup>1</sup> 75%以上の時間を1社の商品の販売に費やすエージェント。一般に、保険会社が研修を行って監督し、オフィスを提供する。

【別表：個人年金各商品の概要】

|      |                |                                          |                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|----------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 変額年金 | 伝統的変額年金        | Traditional variable annuities           | 株式運用等の実績に応じて積立金の変動する仕組み<br>わが国の変額年金にもっとも近い商品<br>生存給付保証特約を付すことで、さまざまな保証を具備することができる                                                                                                                                                           |
|      | 登録指数連動年金（RILA） | Registered index-linked annuities (RILA) | 2010年に初めて登場した新しい商品で、2024年時点で提供している生保会社は19社<br>積立金がS&P500などの証券関連指数にリンクして変動する<br>この点では定額指数連動年金とよく似ているが、契約者のリスク負担の態様が異なっている<br>元本保証はない（ただし損失を一定の範囲に抑える保証が付されている）<br>指数の成長を積立金に反映するが、所定の上限（キャップ）が設けられている<br>指数の成長が積立金の成長にリンクする程度は定額指数連動年金よりも大きい |
| 定額年金 | 確定利付き据置定額年金    | Fixed-rate deferred annuities            | 契約であらかじめ定めた年金の支払いが行われる純粋の定額年金<br>わが国の定額年金のイメージにもっとも近い商品<br>一定の利率保証期間（たとえば3年間）の途中で解約した場合には、その時点の金融情勢に応じて解約払戻金が調整（減額）される市場価額調整型の商品の占率が高まっている<br>点はわが国とは異なっている                                                                                 |
|      | 定額指数連動年金       | Indexed annuities                        | 保険料に付与される利率がS&P500などの証券関連指数に一部リンクして定められる年金<br>定額年金と言いつつも、積立金が指数に連動して変動する<br>元本を保証しつつ証券市場の成長の一定割合を所定の方式に従って顧客に還元する効果を持つ<br>伝統的変額年金と伝統的定額年金の中間的な位置づけ<br>生存給付保証特約を付すことで、さまざまな保証を具備することができる                                                     |
|      | （据置）終身年金       | (Diferred) Income annuities              | 保険料を一時払いまたは分割払いで払い込み、年金で受け取る<br>年金受給は終身または一定期間であり、後者の場合も一生涯受け取ることを想定し定めることが多い<br>据置の場合は保険料を一時払いで払い込み、85歳等の所定の年齢到達時から終身年金の支払いが開始される                                                                                                          |
|      | 確定利付き即時支払定額年金  | Fixed immediate                          | 保険料を一時払いで払い込み、払い込み後12か月以内に終身年金の支払いが開始される                                                                                                                                                                                                    |
|      | ストラクチャードセツルメント | Structured settlements                   | 賠償金を年金払決済方式で支払う仕組み                                                                                                                                                                                                                          |

（資 料）松岡博司「米国個人年金市場の動向（2022年11月）」（2022年11月8日）の表1に基づき筆者作成。